

商学研究科 教員プロフィール

※2020年度Ⅱ期入試で
学生を募集する先生の情報のみ
掲載しております。

索引

- 經濟系列 p.1
- 商業系列 p.6
- 經營系列 p.8
- 會計系列 p.13
- 金融・証券系列 p.20
- 保險系列 p.25
- 交通系列 p.26
- 貿易系列 p.29

商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	千田 亮吉 (ちだ りょうきち)	
担当専修科目	博士前期課程:「経済理論特論」「経済理論特論演習」 博士後期課程:「経済理論特殊研究」「経済理論特殊演習」	
研究テーマ	経済主体の期待形成と経済政策の有効性に関するモデル分析	
研究指導領域	経済理論の検証および理論に基づく経済モデルを用いた政策の評価などを主に扱う。具体的な経済モデルとしては、フォワードルッキング型マクロ計量経済モデル、動学的確率的一般均衡モデル、動学的離散選択モデルなどがある。また、これらのモデルのパラメータの推定など計量経済分析に関わる問題も扱う。また、マイクロデータを用いた実証分析、特に個票データを用いた家計行動の分析や財務データを用いた企業行動の分析も扱う。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォワードルッキング型マクロ計量経済モデル ・動学的確率的一般均衡モデル ・動学的離散選択モデル ・家計の最適化動向 ・企業の最適化行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ計量経済学 ・政策評価
志願者への メッセージなど	特定の分野は限定せず、経済理論をどのように実際の政策評価などに応用できるかという点を重視しています。学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識は前提としますが、これらの科目が未履修ないしは知識が不十分な場合は、基礎的な部分から講義等で解説します。実証分析に欠かせないデータの収集や整理等を根気よく行うことも重要です。	

商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	水野 勝之（みずの かつし）	
担当専修科目	博士前期課程：「計量経済学特論」「計量経済学特論演習」 博士後期課程：「計量経済学特殊研究」「計量経済学特殊演習」	
研究テーマ	経済指数と経済理論	
研究指導領域	<p>経済指数と経済理論の組み合わせにより新たな経済分析を生み出すことをテーマに据えたい。経済指数は経済指数、経済理論は経済理論、というように分離されて運用されていたが、その両者をリンクさせることにより、消費や生産理論において新たな理論展開ができる。その展開をもとに各種の応用と実証分析を行ってきた。研究指導としては、こうした背景をもとに、消費理論の再検討と、その応用、実証までを範囲としたい。生産理論も視野に入れる。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済指数 ・地域研究 ・経済変動モデル ・H. タイルのシステム・ワイド・アプローチ ・ディビジア指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリッシュ指数 ・全要素生産性 ・質の指数
志願者への メッセージなど	<p>まず分析に使う経済モデルであるが、これまで経済理論が前提としてきた硬直的な仮定をそのまま利用しては激動する経済変化に対応できない。既存の経済理論を一般化して、柔軟に分析できるようにしなければならない。この考え方を信条とし、消費分析や効用分析に当てはめて理論展開を行い、実証分析を行ってきた。</p> <p>志願者にも、既存の固定的な概念や手法にそのまま従うのではなく、それを打破して、より現実的な経済分析を行い、社会の役に立つような心構えを望む。そのために、研究のいろはを学び、それを応用展開できる力を身につけてもらいたい。</p>	

商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	畑農 鋭矢（はたの としや）	
担当専修科目	博士前期課程：「財政学特論」「財政学特論演習」 博士後期課程：「財政学特殊研究」「財政学特殊演習」	
研究テーマ	財政赤字のマクロ経済的影響 状態空間モデルの経済学への応用 経済主体のディープ・パラメータの計測 世論形成メカニズムに関する実証研究	
研究指導領域	公共経済学の立場から公共部門の役割や財政運営について研究する。そのために必修の知識としてミクロ経済学、マクロ経済学、統計学・計量経済学、統計データの活用法について学習を進める。経済学の理論をベースにした実証研究の俎上に載るのであれば、狭義の財政学や公共経済学にとどまらず、周辺領域に関する研究についても歓迎する。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政赤字 ・財政運営 ・中立命題 ・状態空間モデル ・カルマン・フィルター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディープ・パラメータ ・世論形成メカニズム ・パネル・データ ・応用計量経済学
志願者への メッセージなど	<p>「勉強」と「研究」は似ていますが、細部はずいぶん異なるものです。勉強は地図のある旅、どこに行けばゴール(答え)にたどり着けるのか大体分かっています。学校の勉強など、ナビ付きの自動車で舗装された道路を走っているようなものです。</p> <p>研究は地図のない(答えのない)所に踏み込むかもしれない旅です。誰も行ったことのない、または行った人はいても既に忘れられている場所を探す未知の旅です。道がなければ造らなければならないかもしれません。明かりがなければ懐中電灯を持って行く必要があります。自らが造る道、自らが持つ明かりが、経済学の理論であり、計量経済学の道具です。</p> <p>道なき道を進むためには、できるだけ強力な明かりが欲しいはずですが。その明かりを得るために大学院での勉強がきつと役に立つに違いありません。</p>	

商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	高浜 光信（たかはま みつのぶ）	
担当専修科目	博士前期課程：「国際経済学特論」「国際経済学特論演習」 博士後期課程：「国際経済学特殊研究」「国際経済学特殊演習」	
研究テーマ	通貨統合，国際通貨の選択と国際通貨システム改革に関わる理論・実証分析	
研究指導領域	国際マクロ経済学に関する理論・実証分析。特に、共通通貨ユーロをめぐって、通貨統合の経済効果に関する理論・実証分析を中心に研究を行っている。その他、各国の国際収支構造の分析、国際間のマネーフロー、通貨投機のメカニズム、東アジアにおける金融協力や、通貨圏形成と各国間の国際貿易構造の関係、国際通貨の生成過程や国際通貨制度に関する史的過程等についても関心をもっている。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際マクロ経済学 ・国際通貨システム ・為替レート動学 ・通貨統合 ・国際収支 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際資本移動 ・経済成長と国際貿易 ・国際通貨の選択 ・貨幣論 ・国際貿易論
志願者への メッセージなど	経済学の理論モデルに基づく考え方や実証手段の習得とともに、歴史や現実の制度に対して深い関心をもつ志願者を希望します。	

商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	横井 勝彦（よこい かつひこ）	
担当専修科目	博士前期課程：「国際経済史特論」「国際経済史特論演習」 博士後期課程：「国際経済史特殊研究」「国際経済史特殊演習」	
研究テーマ	イギリス航空機産業の武器移転・技術移転に関する歴史研究	
研究指導領域	<p>第一次大戦前のイギリスは世界最大の武器輸出国であった。日本の軍事的産業的自立化もイギリスからの武器移転と技術移転に大きく依存していた。そうした武器移転・技術移転のなかでも特に注目すべきは航空機産業であり、アメリカ、ドイツ、フランス等の各国の航空機産業との競合関係のなかで、イギリスの航空機産業は日本も含めたアジア新興諸国に大きな影響を及ぼした。本研究室では、イギリスを中心とした欧米各国の航空機産業の世界展開（武器移転・技術移転）の実態とその下でのアジアにおける軍事偏重の工業化過程について歴史的研究を進める。具体的ケース・スタディとしては、(1)イギリス航空使節団(1921)により日本海軍航空隊の創設とそれを契機とした日本航空機産業の発展、(2)イギリス、ドイツ、アメリカ、ソ連からの武器移転・技術移転によるインド航空機産業の発展とそれを支える産官学連携(MIRC: Military-Industrial-Research Complexes)の形成(1960年代以降)などを扱う。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携 ・航空機産業 ・兵器産業 ・武器移転 ・技術移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・軍事偏重型工業化 ・イギリス航空使節団 ・インド航空機産業
志願者への メッセージなど	<p>現代の課題を見据えた歴史研究の重要性を認識してほしい。現代社会が抱える諸課題の多くは複雑な様相を呈しているが、その歴史的起源に遡ることによって、問題の本質を浮彫りにすることが期待できることは、決して少なくない。本研究室の研究テーマならびに研究指導領域は、そのような問題意識に基づいている。</p>	

商学研究科 教員情報

＜商業系列＞

氏名	菊池 一夫（きくち かずお）	
担当専修科目	博士前期課程：「商業経営論特論」「商業経営論特論演習」 博士後期課程：「商業経営論特殊研究」「商業経営論特殊演習」	
研究テーマ	小売業経営、卸売業経営の研究	
研究指導領域	研究指導領域としては小売業経営、卸売業経営における諸課題をマーケティング論の研究視点から解決することを目指している。具体的には、小売業の国際化、小売業同士の合併、通信販売のしくみ、卸売業によるリテールサポートの有効性、PB商品の台頭などが挙げられる。また同様にサービス・ビジネスの観点から小売業経営を捉え直す研究も行っている。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・小売経営 ・卸売経営 ・小売主導型物流戦略 ・サービスマネジメントとして捉えた小売業 	
志願者への メッセージなど	本研究室は研究者志望の方を望んでいます。小売業経営、商店街、ショッピングモールや、卸売業、フランチャイズ・システムなどに関心のある方が対象です。社会に発生するマーケティング課題を解決するために、学問の発展を担っていく人物を求めます。つまり、社会に生じている諸問題に常に目を配りながら、これまでの学問の成果を十分に確認していく作業が求められます。	

商学研究科 教員情報

＜商業系列＞

氏名	若林 幸男（わかばやし ゆきお）
担当専修科目	博士前期課程:「日本流通史特論」「日本流通史特論演習」 博士後期課程:「日本流通史特殊研究」「日本流通史特殊演習」
研究テーマ	商品(一般消費財)の流通のみならず, 産業財(資金や労働力)の流通史, 又, 情報の流通史について主に研究している。
研究指導領域	本科目は流通およびマーケティングあるいはビジネス(企業)のケースを取り扱う。そこで展開するトピックはアメリカのビッグビジネス、日本のそれ、あるいは流通システムや企業システムそして、基礎にある資金や労働市場、情報システムのものである。複雑に絡み合うこれらの諸テーマを科学的に分析、解析し、将来の展望につなげるための研究指導が行われることとなる。
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・流通事業と流通システムの史的展開 ・企業システムの史的展開 ・情報の流通経路の発展と企業システムの関連 ・労働市場の特性と企業のリクルートシステムの変遷 ・企業戦略についてのケーススタディ
志願者への メッセージなど	マーケティング分野では、本研究室はマクロマーケティング部門に位置づけられるが、マネジリアルマーケティングのケースメソッドについても分析領域が及ぶ。歴史的、文化的に事象を相対化する手法を学び、それにより過去の分析から将来の展望を導き出す。こういった方法に興味をもって取り組んでほしい。